

第47回ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

2 感想文の部

最優秀賞 1点

「ツバメと人々の思い」

珠洲市立蛸島小学校 6年 番匠 七海

私は、ツバメ調査に参加して、2つのことに気付くことができました。1つ目は、「蛸島町には、ツバメを歓迎している人が多くいること」です。一軒一軒回ってインタビューすると、ツバメの巣がある家では、「ツバメが来るのを毎年楽しみにしとる」と言っていました。ツバメの巣がない家の人でも、「もし、家に巣を作ったら、歓迎する」と言っていました。そんな「歓迎する」という内容の話をした人がたくさんいました。私は、ツバメ調査をする前は、「ツバメは、フンを落としてよごすから、あまり歓迎する人はいないだろう。」と思っていました。私自身、フンでよごすツバメを歓迎する気持ちはあまりありませんでした。けれど、ツバメ調査に参加して、「町の人々はツバメをかわいがっているんだな。熱い思いをもっている人が、たくさんいるんだな。」と分って、ツバメが来たらいいなという気持ちに変わりました。2つ目は、「フンでまわりがよごれない工夫をしている家がたくさんあったこと」です。ツバメが巣にいて、フンを落としてもよいように、カサを開いてさかさまにつるしている家がありました。フンのためにカサを使う工夫を初めて見たので、びっくりしました。もし、私の家にツバメが来たら、カサの工夫をしたいと思いました。他に、巣の下に新聞がしいてあって、風でとんでいかないよう、四すみに石を置いてある家もありました。新聞紙の工夫は、あちらこちらの家でよく見かけました。私はツバメ調査に参加し、町のツバメは、町の人々のやさしきで支えられて生活していると思いました。そして、ツバメには、町の人を喜ばせてくれる不思議な力があることも分かりました。これからも、町へやってくるツバメが増えるといいなと思いました。

優秀賞 3点

ツバメの変化

金沢市立三谷小学校 5年 小松 倫子

私は5月12日に5回目のツバメ調査をしました。去年よりもツバメが少なかったのが、残念でした。調査中は「ぜんぜんツバメがいないね。」という声がたくさん聞こえました。私の予想では去年よりもいるのではないのかと思っていました。しかし予想と違って去年よりもツバメは減っていたのでどうしてだろうと考えました。私たちの地域はツバメを守るため、ツバメが住みごごちの良くなるために、カラスにねらわれないように電気が流れる糸をつけたり、カラスが入って来ないような仕かけを作ったりしていたし、カサをつるしたりもしていました。こんな工夫をしているのに、どうしてだろうと思いました。私達の町には家が19戸あります。ツバメは5羽で、古巣が5つ、新しい巣は3つありました。しかも、ツバメを歓迎していない人がいて残念でした。私は3つの疑問を持ちました。

- ・1つ目は、私が住んでいる町はツバメにとって住みごごちがいいのか？

・2つ目は、三谷地区の中でどの地区が一番ツバメの数が多いのか？
・3つ目は、今と昔ではどのようにかわっているのか？このことを調べたり考えたりしてみました。

1つ目は、納屋を閉めている人が多いので、ツバメにとって、巣を作る場所がなくなり、住みごちが良いとは思えないと考えました。

2つ目は高坂でツバメが20羽です。ツバメの巣が多いのは小池で17個です。古巣が多かったのは、正部で50個でした。この結果から昔からツバメがたくさんいたことを知りました。

3つ目は巣がくっつきにくい家の壁が増えていることや鳥インフルエンザも影響を与えていることを本で読んで分かりました。

このように昔と比べるとツバメの数が減り、ツバメも苦労しているのかなと思いました。私ができることがあれば協力したいです。また、ツバメを歓迎してくれる人が増えればいいです。私はツバメのことが好きだからツバメを守るための新しい対さくがあればやってみたいですね。

優秀賞

地域の人の思いがツバメに

珠洲市立蛸島小学校 6年 中川 優月

私は、ツバメ調査に参加して、「地域の人の思いややさしさがツバメの数に関係しているんだな」と思いました。ツバメ調査で「ツバメを歓迎している」と答えた人は、ほとんどの人だったし、「ツバメの巣がないけど、ツバメが家に巣を作ってくれたらいい」と言った人もいました。言葉だけではなく、実際に車庫の窓を開けて、ツバメが巣を作りやすいようにしたり、木の板を巣の下に打って、巣が落ちないようにしたりと、工夫している様子が見られました。地域の人のツバメに対する強い思いが伝わってきました。私たちの町には、空き家が増えています。また、新しい家もどんどん建っています。町は少しずつ変わっていくけど、ツバメが住む環境はあまり変わっていないと感じました。なぜなら、地域の人のほとんどがツバメを歓迎しているからです。新しい家の人もツバメを追い払ったりしていないのを見ると、ツバメをととてもかわいがっていると思いました。私はこんな自分の町をほこりに思います。ツバメの数がどんどん増えていくように、ツバメが住みよい環境づくりに私がかんばっていきたくと思いました。

優秀賞

ツバメの大旅行

内灘町立向栗崎小学校 6年 津山 結

私はツバメ調査の事前学習を通して、今までなにげなく見ていたツバメがとってもえらいんだと知って、もっとツバメについて知りたいと考えるようになりました。私が最初にびっくりしたのは、ツバメは9月になると「渡り」というものをするということです。まさかあの小さなツバメが日本から約5000キロメートルもはなれたマレーシアで冬をこすだ

んで……。私だったらきっと無理だなと思います。けれど5000キロメートルもはなれたマレーシアに行くツバメはえらいなと思いました。きっとその「渡り」で多くのツバメが死んでしまうと思います。しかし、一生けん命に5000キロメートルもの大旅行を終えたツバメはきっとたくさんの経験をし、成長していることと思います。

私が2番目にびっくりしたことは、ツバメは帰ってきたら巣を作る場所をさがしてオスとメスが出会い、巣をつくるということです。一週間ほどかかる巣作りは旅行帰りでつかれているのにとっても大変だからツバメはえらいなと思いました。もし私だったら旅行から帰っても「つかれた～」と言ってゴロゴロすると思います。改めて、ツバメはすごいなと思いました。このようにツバメについて知っていくうちに、ツバメをなにげなく見るのではなく、「がんばって!」と応援するように、見守っていきたいと思うようになりました。これからはツバメについてもっと調べてみようと思います。

佳作 2点

ツバメ調査をして思ったこと

白山市立松任小学校 6年 上見 修矢

昔はツバメがいたけど、今は古巣というところもそこそこあった。町中で、ツバメは、まったく見かけなかった。ツバメの巣も少ししかなかった。などの「メモ」と結果から、やっぱりツバメがとても減っているなと思いました。ぼくのおじいちゃん、おばあちゃんの家にもツバメがいたけど、いまはなぜかもういません。去年の横・相木・西新と比べると、相木や西新まではあまり探せなかったことも、あるかもしれないけど、成鳥や古巣は今年のほうが少ないです。自然環境が悪くなっていることも理由の1つだと思いました。インタビューで「ツバメは人間を警戒している」と言った人もいました。だから、予想だけど、ツバメをあまり見なくなったのは人間が原因かもしれません。自動車から二酸化炭素を出したり、温暖化など環境破壊もあります。だからツバメに限らず生き物は大きな命も小さな命もできる限り大事にしたいと思います。ふだん、あたり前のようにやっていることでも、一歩立ち止まって、それが他の生き物に害をあたえないか考えたいと思いました。

佳作

ツバメ調査

野々市市立館野小学校 6年 村本 達哉

今回、ツバメ調査を実施して、残念ながらツバメやツバメの巣、古巣は見つかりませんでした。自分たちが調査した地区には過去、6か所でツバメの巣が発見されたところがあったけど、今回の調査では巣は見つかりませんでした。もしかしたら、この地域の自然環境が少しずつ悪化してきているのかもしれないなと思いました。また、地域の方にお話を聞かせていただき、その方もツバメや巣は見えていないとおっしゃっていました。この地域のツバメやツバメの巣が減ってきているのは残念でした。だけど今後ツバメが少しでも増え自然環境が悪化しないようにするために自分の行動が自然環境を守ることにつながるかどうかを考えていきたいです。

